

1972年、NTT電気通信研究所に入所し、NTTが国産3社と共同開発したメインフレーム(DIPS)開発プロジェクトに参加。1986年、UNIX系WS開発プロジェクトに参加し、Oracle移植、グラフィカル情報検索システム開発、分散データベースシステム開発を担当。1988年、NTTデータに転籍、1999年、NTTデータ先端技術入社、2012年に現在の織田DMコンサルティングを開業するまで、一貫して基幹系データベース(OLTP系)および情報系データベース(DWH系)関連の技術開発、設計構築支援を担当。広島工業大学非常勤講師(2002年～2003年)、電気通信大学非常勤講師(2002年～2010年)。現在は、データ品質管理、マスターデータ管理、メタデータ管理などのデータ管理技術に基づきデータ活用に関する総合的なコンサルティングを実施。



(DIPS :Dendenkoshia Information Processing System)

<担当分野>

- ・データ活用戦略立案
- ・DBMS選択
- ・DWH構築・改善
- ・データベース統合・移行
- ・データ収集・管理方式検討
- ・データ分析・活用ツール選定
- ・データベース構築技術
- ・ビッグデータ活用



<著書・論文・資格等>

- ◆著書・論文
  - ・「データベース構築ガイド」、電波新聞社
  - ・「DB技術の勘所」、DBマガジン、2000.～2001 翔泳社
  - ・「情報インタフェースの構図」、中央経済社、共著
  - ・「インフラ技術の最新潮流(データベース編)」  
ITアーキテクト、2008 IDGジャパン
- ◆資格
  - ・情報処理技術者(ネットワーク)
  - ・「ITスペシャリスト(データベース) プリンシパル」

＜職務経歴＞ 生年月日:1946年10月24日、東京都出身

- 1969/3:慶応義塾大学 工学部 電気工学科 卒業
- 1969/4:日本電信電話公社(現・日本電信電話株式会社) 入社
  - ～1972/10 データ通信本部にてオンラインバンキングシステム開発(2銀行)
  - ～1978/2 横須賀電気通信研究所にて情報検索システム開発
  - ～1980/2 横須賀電気通信研究所にてシステム集中監視装置開発および衛星通信を用いたデータ通信実験
  - ～1982/2 武蔵野電気通信研究所にて研究所内情報システム運用
  - ～1986/2 横須賀電気通信研究所にてDIPS用リレーショナルデータベース管理システム開発
  - ～1994/7 横須賀電気通信研究所、データ通信本部、NTTデータ通信開発本部にてDB応用システム開発
- 1988/7:NTTデータ通信株式会社 転籍
  - ～1998/7 オープンシステムセンターにてデータベースシステム開発支援および関連技術・製品の調査・評価、DWHシステム構築手法(Actiflow)開発、銀行、流通業等のDWHシステムの構築支援
  - ～1999/8 産業システム事業本部にて通信業、製造業、小売業、保険業などのDWH、CRM、CTIシステム構築支援
- 1999/9:NTTデータ先端技術株式会社 入社
  - 情報系システム構築に関するコンサルティング(公共機関、通信業、流通業、金融業)
  - ・DWHシステム構築のための上流工程コンサルティング
  - ・Oracle、DB2などによるDB、DWH設計・開発、チューニング、トラブルシューティング技術支援
  - ・システム統合の観点から、EAI、ビジネスポータル、XML、CRM、SCM、Webサービスなど技術&市場動向調査
  - ・SybaseIQによるアプライアンス(Sybase Analytic Appliance)の企画・開発・販売
  - ★広島工業大学非常勤講師(2002/9～2003/3)、電気通信大学非常勤講師(2002/12～2010/1)
- 2012/4:織田DMコンサルティング 開業

＜強み/モットー＞ ・システムやサービスをデザインする時は、良いデザインの原則、「ユーザにとっての良い概念モデルを提供すること」に基づいて常にユーザの立場に立ってデザインする。  
・教育、研修にあたっては、「なぜ？」を理解してもらえように常に心掛ける。

## <コンサルティングサービス>

※下記の外、データベース構築からデータ活用やDWH構築に関して調査・分析・構築・移行・改善等の御相談を幅広く承っております。

### 1. データ活用環境構築コンサルティング

#### ① データ活用現状要求調査

現状のデータ活用状況とデータ利用部門(企画部門、営業部門等)のデータ活用要求を調査。

#### ② 現状データ調査

①の調査結果である現状のデータ活用(システム化/非システム化)とデータ活用要求に対応した内部および外部データを調査。

#### ③ データ収集方式検討

②の調査結果に基づいて収集するデータの整理とクレンジング方式を検討。  
データアクセスに必要となるメタデータ(データの属性、意味など)を整理。

#### ④ データ蓄積方式検討

③で収集されたデータを蓄積するためのデータモデル設計し、蓄積するデータを管理するDBMS、ツール類の選定をする。蓄積されてデータにアクセスするデータ分析・活用アプリケーションとのインターフェース(SQL、ODBC/JDBC、RESTなど)を決定。

#### ⑤ データ分析・活用アプリケーション

①の調査結果の現状のデータ活用とデータ活用要求に合ったツール類の選定。

### 2. データ管理全般の現状調査と改善提案

① データ品質管理、データセキュリティ管理、マスターデータ管理、メタデータ管理などのデータ管理機能の現状調査。

② ①の結果に基づいた改善提案。

## <教育研修サービス>

※下記の他、データベース、データ管理、データウェアハウス等について御要望に応じて各種の教育研修を実施可能ですので御相談ください。

### 1. データ活用に関連する基礎研修

- ① 「データベース技術の基礎」
- ② 「データベースシステム構築入門」
- ③ 「データベース技術の動向」
- ④ 「データベース・スペシャリスト養成」
- ⑤ 「データ・サイエンティスト入門」
- ⑥ 「企業情報システムとビッグデータの関係」



### 2. 研修「ビッグデータ活用を支えるデータ管理技術」

「ビッグデータ」は、情報システムを開発する側および利用する側にとって、最近、重要なキーワードになっています。しかし、その定義は、当事者、関係者により相違があるばかりでなく、その処理基盤についても、リレーショナルデータベース(RDB)をベースにしたビッグデータ対応機能、NoSQL、Hadoop、インメモリDBなど、様々な選択肢があります。このため、ビッグデータを対象にシステムを開発する場合、システム開発者、利用者の双方に大きな混乱を与えています。本講では、ビッグデータ処理の領域で最も重要な役割を果たすRDB技術、ビッグデータ処理向けに開発されたNoSQL、Hadoop、インメモリ処理技術について、機能概要、長所/短所、導入上の注意点、システム事例などを交えて説明します。

#### <プログラム概要>

1. ビッグデータとは？
2. RDBとビッグデータ
3. NoSQL、Hadoopとビッグデータ
4. インメモリ処理とビッグデータ
5. 今後のデータ管理基盤

